

日本学校教育相談学会青森県支部第3回全体研修会

## ネット上のトラブルへの対応

～子どもをネット社会の被害者にも加害者にもしないために～

早稲田大学教職大学院 教授 田中博之先生

平成26年11月30日(日)

青森県総合学校教育センター

参加人数：33名 記録：山田

### 1. 情報モラル教育からネット安全教室へ

情報モラル → 情報通信機器の活用によって人に迷惑をかけないための教育  
モラル教育だけでは犯罪(いじめなど)を防ぐことができない

これからは、

ネット安全教育→インターネット機能の活用による犯罪の加害者・被害者にしない教育  
が必要

#### ネット安全教育のすすめ

- ネット危機の実態を学ぶ
- 子どもを守るのは大人の責任
- 子どもと一緒に考える

### 2. 子どもに迫る4つのネット危機

- ・ケータイ依存 (夜更かしから遅刻、睡眠障害など)
- ・ネットいじめ(批判的な書き込みなど)
- ・ネット誘引
- ・ネット詐欺

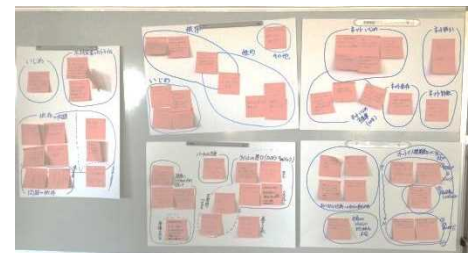
#### <グループワーク①ネットトラブルの現状>

○ネットいじめ 悪口・無視・写真を拡散される(画像流出)・不適切な行為を配信  
関係のない子どもからも批判される・炎上・性的なこと

○ネット詐欺 なりすまし・架空請求・迷惑メール

○ケータイ依存 依存的な使用の結果、相互トラブル  
生活リズムの乱れから不登校

○その他 ネットで人間関係を作る → 子どものコミュニケーション能力が低下



### 3. 子どもの心のスキ

○トラブルが起こる心の原因は？

- ①「自分だけは被害にあわないだろう」 被害を大きくする
- ②「気にしていないだろう」 相手の心を深く傷つけている
- ③「これくらいバレないだろう」 個人は特定される
- ④「ちょっとしたうさ晴らし」 犯行予告の犯罪を引き起こす
- ⑤「どこかに儲け話はないかな」 詐欺にひっかかる

※「安心インターネットライフガイド」で検索すると様々な資料がダウンロードできます。

○トラブルがどんどん大きくなる原因は？

集団心理→子どもたちは仲間からいじめられることを恐れて、いじめに加担する。

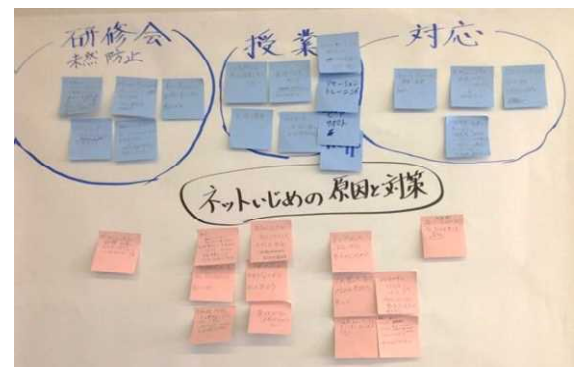
○子どもにつけたい技能は？ 予防、再発防止、問題解決の能力

- ・事実を大人に報告する勇気を持つ。
- ・1人でも助ける子がいたら救われる。
- ・生命・金銭に関わることは警察が動いてくれる。物証を残すこと。
- ・友だちや家族と一緒に長続きする。

#### <グループワーク②ネットいじめの原因・対応策>

原因……日頃のイライラ・劣等感・軽いノリ・ねたみ  
学級の状態・不満を自分で解消できない未熟さ

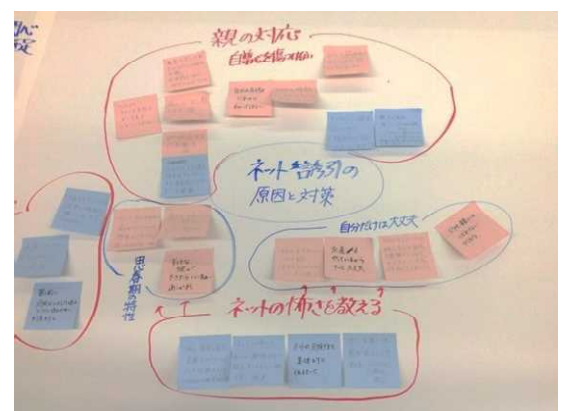
対応策…ネットの使用についての教育→未然防止  
アサーショントレーニング・SEL など  
大人が子供の変化に気づく・見守る  
相談できる関係づくり  
いじめが起きてしまった場合の体制づくり



#### <グループワーク③ネット誘引の原因・対応策>

原因……子どもの心の居場所のなさ・自尊感情の低さ  
家庭でのルールがない・自分だけは、と油断  
思春期特有の好奇心

対応策…家庭への協力依頼(ルールを決める、状態把握)  
ネット安全教室の実施(ネットの怖さ)  
子どものスキルアップ



### 4. 学校 AUP の作成について

「望ましい活用法」「禁止事項」「許容範囲」を明文化し、子どもが安全かつ教育的にインターネットを利用できるように環境を整える。